

令和6年6月21日

令和6年度病害虫発生予察注意報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物：カキ、モモ、スモモ、キウイフルーツ、ナシ、ブドウなど
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 加害期間：4月下旬～
6. 注意報発表の根拠

果樹カメムシ類の発生が多く、4月25日付けで令和6年度病害虫発生予察注意報（第1号）、5月29日付けで病害虫防除技術情報（第3号）を発表したところであるが、その後も以下のとおり多発している。

- 1) 紀の川市粉河の予察灯における6月1～15日の誘殺数はチャバネアオカメムシが1,858頭（平年95頭）、ツヤアオカメムシが3,079頭（同184頭）であった（図1）。これらの数値は過去10年で最大である。
- 2) 有田川町奥の予察灯における6月1～15日の誘殺数はチャバネアオカメムシが3,795頭（平年123頭）、ツヤアオカメムシが2,077頭（同184頭）であった（図2）。これらの数値は過去10年で最大である。
- 3) みなべ町東本庄の予察灯における6月1～15日の誘殺数はチャバネアオカメムシが1,252頭（平年288頭）、ツヤアオカメムシが2,507頭（同1,041頭）であった（図3）。これらの数値は過去10年で最大である。

7. 防除上の注意事項

- 1) 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きく、山林隣接ほ場では被害が出やすい傾向がある。また、カキでは「富有」で被害が大きいため、特に注意が必要である。
- 2) モモやスモモでは収穫期の防除となるので、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。使用時期が「収穫前日まで」となっている薬剤の場合、収穫は散布から24時間以上経過してから開始する。

- 3) モモは袋がけを行っていても果実が肥大して袋に密着すると袋の上から吸汁されるので、園内の発生状況をよく観察し、発生があれば薬剤散布を行う。除袋後は特に注意が必要である。
- 4) 今後の発生動向については、農林水産部鳥獣害対策課のウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報
 (<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>) や各地域の振興局、JA 等の情報を参考にする。
- 5) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp>）を参照し、適正に使用する。

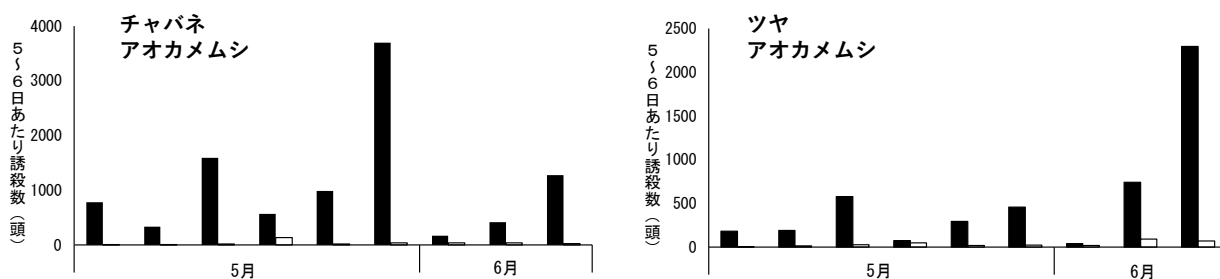


図1 紀の川市粉河の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺消長 (■本年、□平均)

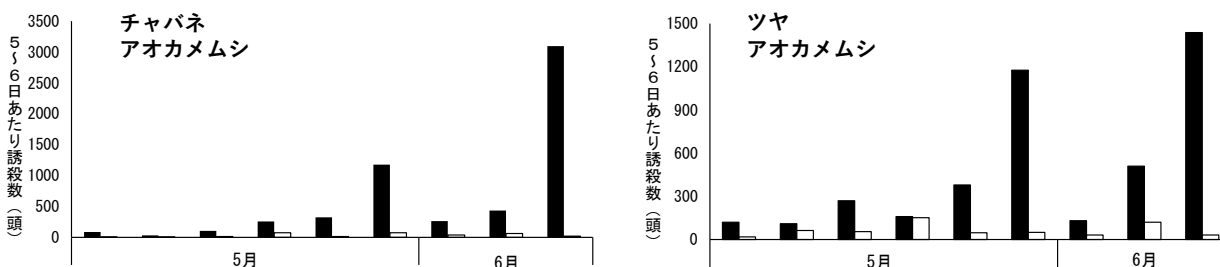


図2 有田川町奥の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺消長 (■本年、□平均)

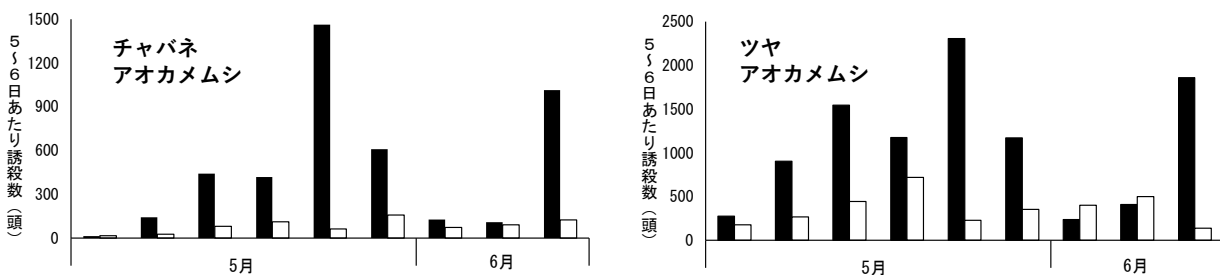


図3 みなべ町東本庄の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺消長 (■本年、□平均)

和歌山県農作物病害虫防除所 紀の川駐在
 電話：0736 (73) 2274